

## 香川県事業承継支援窓口



事業承継の準備に早すぎることはありません。

こんな悩みありませんか？

何から始めればよいかわからない。

誰に相談すればよいかわからない。

事業の引き継ぎに不安がある。

後継者が見つからない。

まずはご相談ください。

何度でも、無料で相談対応

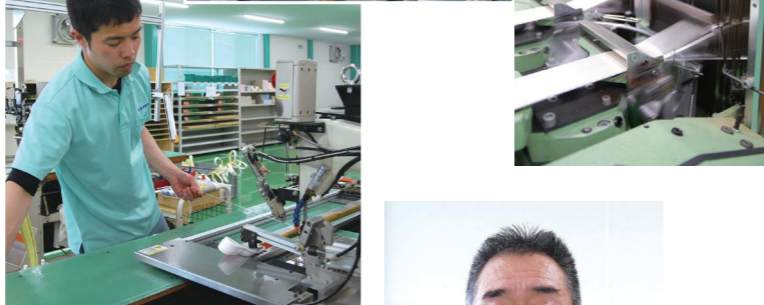
香川県事業承継支援窓口

〒761-0301 高松市林町2217-15

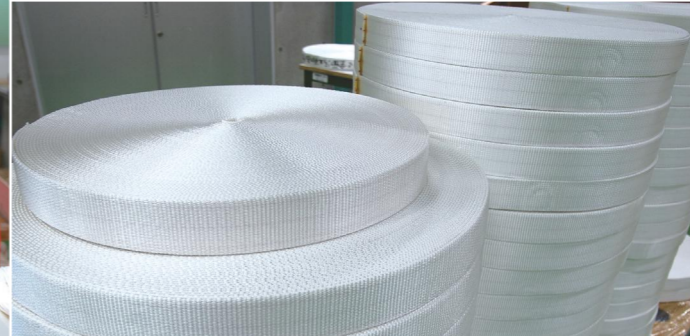
公益財団法人かがわ産業支援財団内

Tel.087-802-7070

8:30~17:15土日祝休



大倉康司社長



**続く需要増加 求める若い力**

売り上げはこの10年で急成長してきましたが、東京五輪やリニア新幹線、関西万博と、まだまだ内需の増加は続いていくだろうと大倉さんは読んでいます。今日注文して明日届くのが当たり前、という物流の現状を踏まえれば、今後はさらにスピードも求められる。そうした見通しに基づいて、2018年12月に第二工場を増設しました。第一工場とまったく同じ製造機能を持つ双子工場、すでに本格稼働しています。

大倉さんが考えるメーカーの在り方は、「注文残を出さず、即日製造・即日出荷を実現すること」。業界も大量生産の時代に入り、2007年に旧工場群を再編成して、新しく第一工場を建設、併せてスイスの一流メーカーの高速織機を導入しました。その後も設備投資を続け、最新設備をそろえています。織り上げたベルトの縫製は国内最大級の手動ミシンを使う手作業で、織機やミシンの数は国内トップクラス。「大量の注文を自社一貫でスムーズに受けられるのが大きな強みで、大量生産にも対応できます。必然的に大口の注文が集まってきますね」と大倉さん。

「思い切った増設しておいてよかった。第二工場がなければ、注文に対応しきれなくなるところでした」と笑う大倉さんは、製造体制の拡充とともに積極的な採用も進めています。同社の特徴は若手が多いことと、女性が6割を占めること。自動化・マニュアル化を進めているため、未経験でもすぐ仕事になじみやすいと言います。

「理想はロボットによる自動化で24時間の生産体制を確立したいんですが、業界のスケールを考えるとそこまで労力をかけるのは難しい。現在は一部の機械化による省力化で、効率アップを目指しています」と大倉さん。同社が開発した独自の自動ミシンは同業他社にも導入されるなど、業界全体の技術革新に大きく貢献しています。

人材確保とともに、充実していくハードをより生かすための教育が今後の課題。産学連携も視野に入れながら、どんどん新しいことを取り入れようとしています。大倉さんは「若い人たちならではの発想で、現状を打開してほしいですね」と期待を込めて語ってくれました。

問い合わせ先  
 (公財)かがわ産業支援財団 企業支援課  
 ☎087-840-0391

「もともとは女性のスカートに使われるインサイドベルトといった衣料用の製品を作っていたんです」と話すのは代表取締役の大倉康司さん。需要が減る中で新たな展開を求めて注目したのが、産業資材でした。「スケールが違うだけで、ノウハウを生かせる転換でした」

現在の主力商品は、鉄骨などの重量物をつり上げるベルトスリングや、荷締め用のラッシングベルト。荷役・物流機器の総合メーカーとして、「細巾織物」の製造技術やノウハウ

を生かし、高負荷に耐えるさまざまな産業用ベルトを手掛けています。

プロ向けの工具や資材を扱う大手商社が香川に進出する際に提携し、製品は全国に流通。プライベートルランドやOEM(他社ブランド製品)も手掛けており、発電・化学プラント、ゼネコンの建設工事、自動車産業、運送など、さまざまなものづくりを支えてきました。メイドインジャパンという強みはあるものの、JIS規格商品であるため性能そのもので他社と差をつけにくいのも事実。同社の武器は、糸から仕入れて織り上げる自社一貫体制と、出荷までのスピードです。

# 先見の明、業界を引っ張る 一貫製造でスピード勝負



スピードが求められる物流に対応すべく即日納品の量産体制を追求し、製品は香川から全国へ。四国で唯一の細巾織物メーカーとして業界を牽引する香川のものづくり企業をご紹介します。

丸善織物株式会社  
 (住所) 善通寺市金蔵寺町540  
 (創業) 1953年  
 ☎0877-62-1100  
<http://www.maruzen-orimono.co.jp/>

